森林景観整備
―その考え方とやり方―

由田（よしだ）幸雄
技術士（森林部門　林業）

自己紹介

- 宇都宮大学 林学科卒業
- S50年　林野庁入庁
- H1 営林署長（佐久市）、上松木材販売所長
- H10年　中部森林管理局 計画部長
- H12年　日光森林管理署長
- H16年　福島森林管理署長
- H19年　林野庁管理課監査官で退職
- H29年　「森林景観づくり」を発刊

森林景観整備に取り組んだ経緯

なぜ森林景観整備にとりくんだのか(1)

- H2年に国有林はそれまでの木材生産重視から森林管理を重視する管理経営に転換したが・・・・
- 森林レクを重視する森林の管理手法が分からなかった　→　検討した

なぜ森林景観整備にとりくんだのか(2)

- 森林景観整備は地域観光の振興につながると考えた
- 独学で森林景観整備に取り組んだ

景観の種類

- 大別すると次の2つである

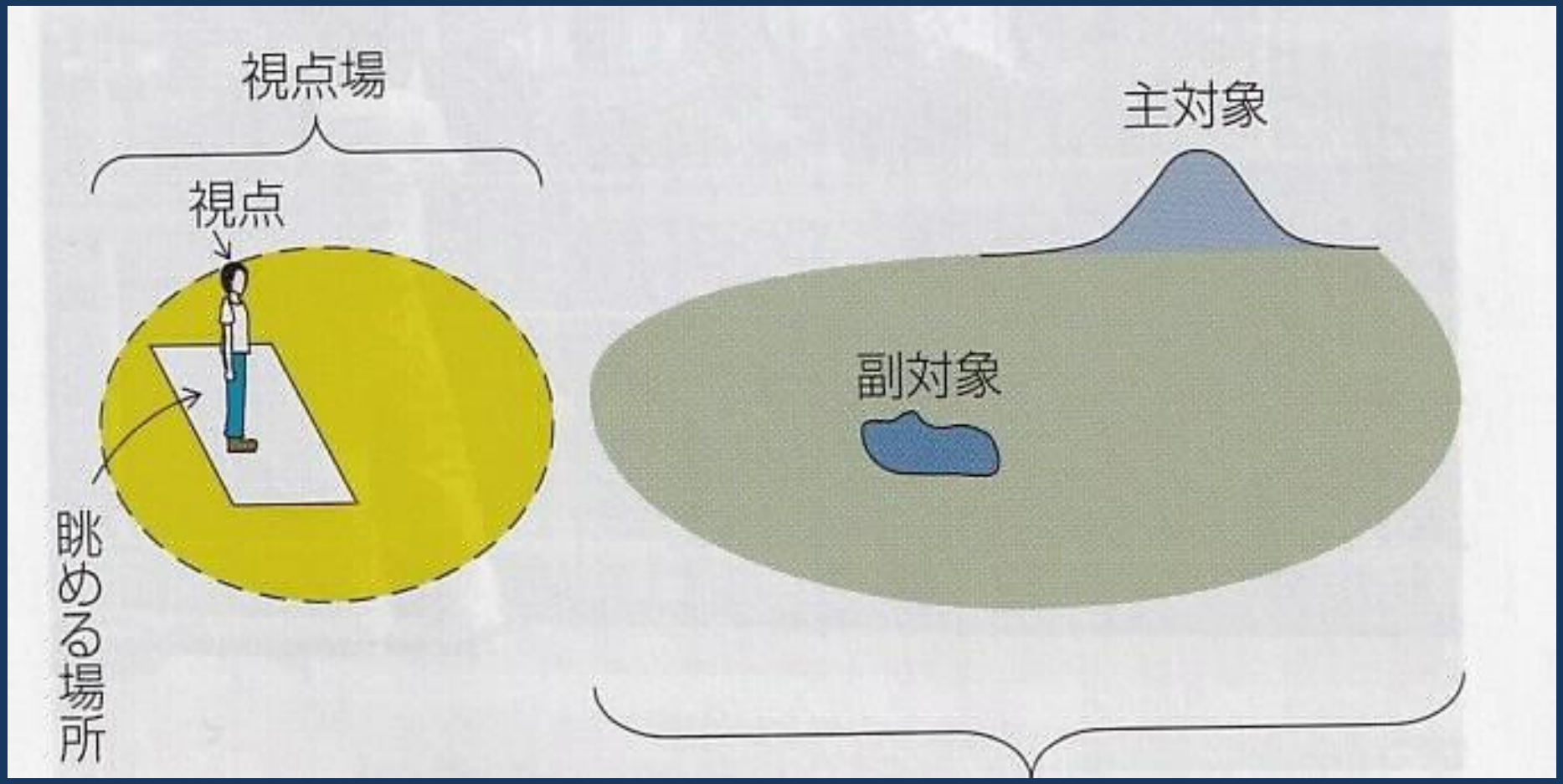
１　展望台等から立ち止まって見る眺め
（シーン景観）　→　これを説明する

２　移動しながら見る眺め
（シークエンス景観）

景観に関する用語

- 基本的な専門用語について説明する

景観把握モデル
― 視点、視点場、視対象 ―



視　点（してん）

- 景観を眺める位置（見る位置、ビューポイント）
- 眺めている人を視点で表している

眺める場所

- 山などの対象を眺めるための場所
- 展望台や展望所、見晴台等のこと

視点場(してんば)

- 視点の場という意味
（視点まわりの空間のこと）
- （私の定義）
眺める行為を促進するために整備を必要とする視点まわりの空間

（視点場の用語は使用しない方がよい）

視対象（したいしょう）

- 眺められる対象のこと

（展望台等から見える山や湖、森林など）

森林景観整備のキーワード

１　景観

２　景観整備

３　森林景観　→　説明を割愛する

景観とは

- 景観は、「ながめ」であるが・・・・・

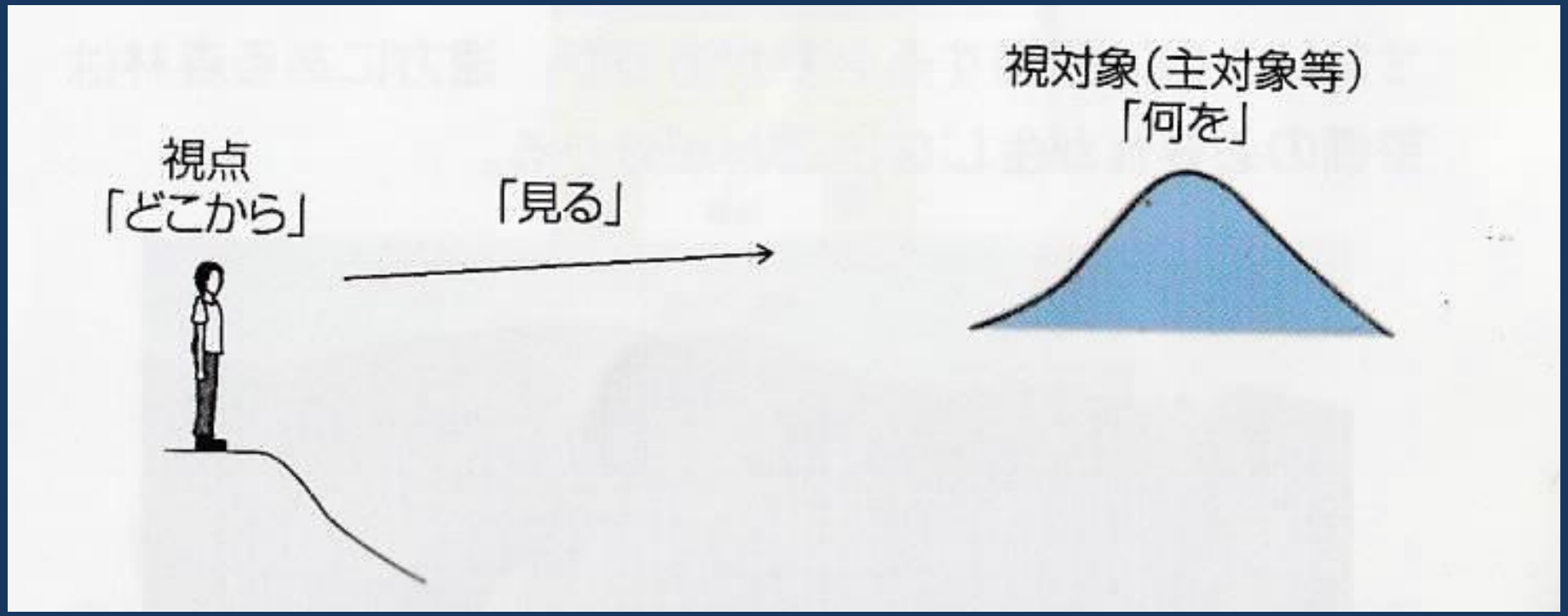
- 景観はながめであると考えると、景観整備は眺めている対象を整備することになるが　→　それだけなのか

景観の特徴は

- 景観は視点と視対象の関係で成立している

（眺めは視点から対象を見ることにより成立している）

景観は視点と視対象の関係で成立
―どこから、何を、見る、の3つが重要―



景観整備の内容は

景観整備は次の3つになる

１　視点を設けて、その周りを整備する

２　視点から見たいものが見えるよう、
　見通しをよくする

３　眺められる対象（山など）を整備する
（しかし、３は難しいことが分かる）

森林景観整備の特徴は

1 眺める対象は遠方にあり、 広大なので、その整備は困難である

2 山地は自然度が高いので手を加えない方がよい

眺められる対象の整備は考えなくてよい

それでは、眺める対象を整備するのはどのような場合か？

- 視点近くに見せたいものがある場合（距離が近いほど容易で効果的である）

次に事例を示す

銀閣寺垣

灯籠（六義園）

借景庭園（山は整備しない）足立美術館

まとめ: 眺める対象の整備

- 視点（人）の近くを整備する

よって、森林景観整備では考えなくてよい（ここが重要）

→　眺める対象の整備は難しい。

これがないということは森林景観整備は易しいということ

森林景観整備の内容

１　視点を設ける
２　視点のまわりを整備する
３　視点からの見通しをよくする

→　以下これらについて説明

Ⅰ　視点の設定（選定）

- 新たに眺める場所を整備するときに必要な知識

Ⅰ　視点の設定(選定）の考え方

- 道路（歩道、車道）沿線に設ける

　→　誰でも利用できる

- 視点は見たいものが見えるよう、見通しのよいところに設ける

→　見通しのよいところとは？

見通しのよいところとは

市街地では

視点前方が次の場合である

①道路

②水面（川や池など）

③広場

→　これらの事例を紹介する

前方が道路（いちょう並木と絵画館）

前方が水面

橋上からの眺め

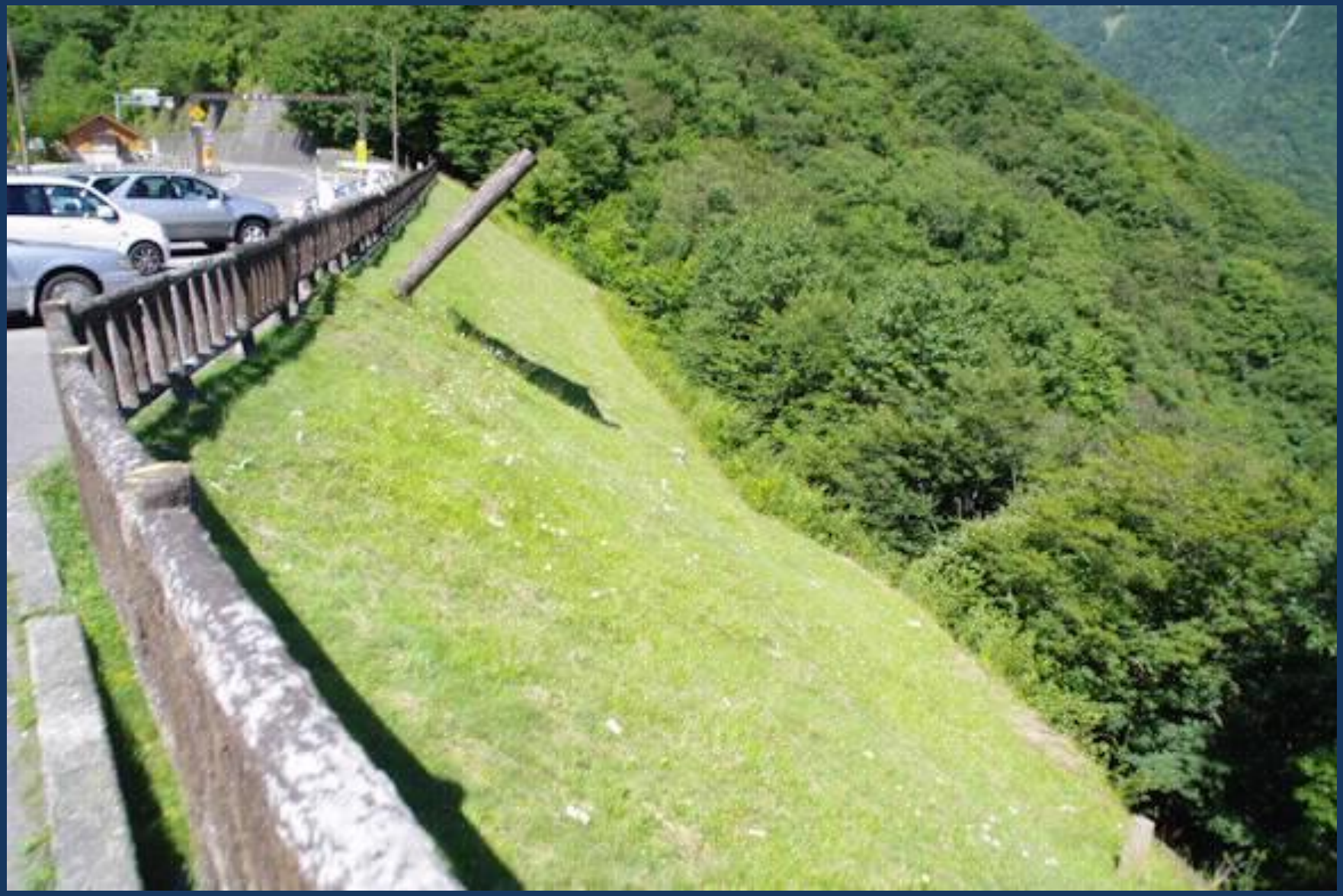
前方が広場（新宿御苑からドコモタワー）

山地で見通しの良いところとは

- 山地ではまっすぐな道路や広場は少ない
- 水面（湖など）はあるが多くはない

- しかし、山地は傾斜があるので、前方が急斜面（30度以上）のところは見通しがよい

前方が急斜面（奥日光、明智平）



前方が水面　見通しがよい

山地における視点の設定

- 基本：見る方向が急斜面のところに視点を設ける
- 緩斜面だと、見通しが十分でなく、維持管理が難しい（5，6年たつと見えなくなる）

→ しかし展望台の前方が緩斜面の場合もある

展望台の前方が緩斜面になる場合

- 車道の場合は駐車場が必要である
- 駐車場は傾斜の少ないところに整備される
- よって、車道沿線の展望台は前方が緩斜面になりやすい

→　見通しを確保するのが難しくなる

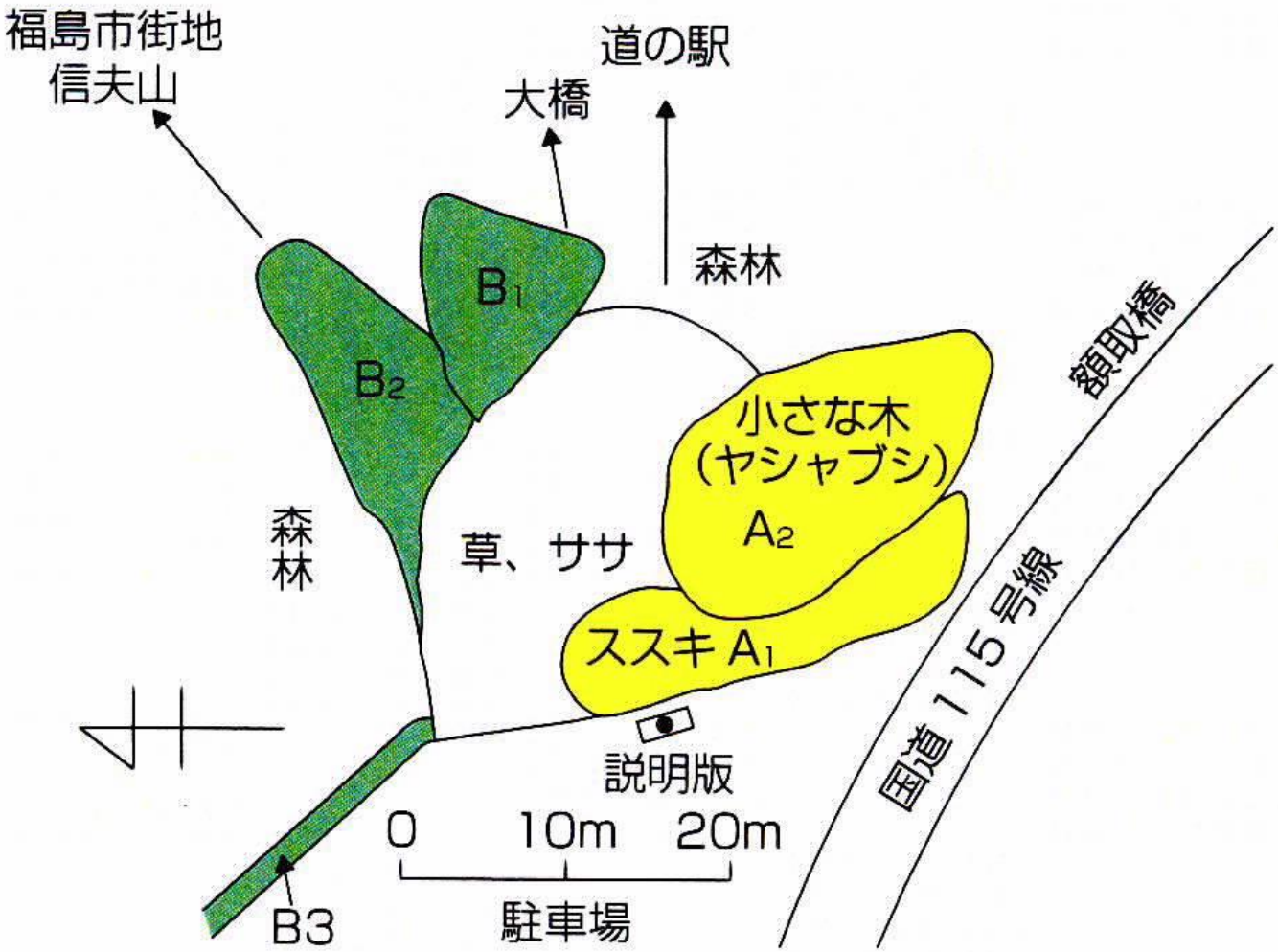
緩斜面での整備事例（福島市）

- 見せたいもの（大橋）が見えるよう、視点前方の邪魔な樹木等を伐採した
- 視点前方の斜面傾斜は１８度
  大橋は俯角１０度の位置にある
- 見通しをよくするために視点前方を
  ７０m先まで伐採した

展望台と大橋（後方の山腹から撮影）

展望台の前は緩斜面（整備後）

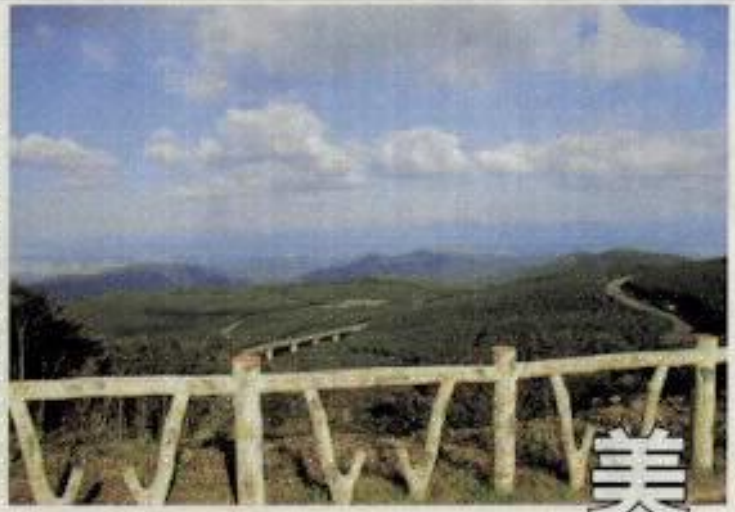
整備の状況


福島市街地
信夫山
道の駅
大橋
森林
B1
B2
森林
草、ササ
小さな木
(ヤシャブシ)
A2
ススキ A1
説明版
0
10m
20m
駐車場
B3
額取橋
国道115号線

整備前の眺め

整備後（昔の眺めの復活）

新聞で紹介された



美しい眺めを取り戻した展望台

美景"復活"

道の駅つちゆ近くの展望台

福島森林管理署と県

藪や枝取り払う

樹木を伐採する森林管理署員ら

福島森林管理署と県の町の道の一二五号国道のある展望台周辺の森林藪除去し、国国道の千厩峠

この場所は十五年ほど前までは、福島の市街地や霊天山をはじめとした信達平野、遠く霊山など阿武隈山地の山々が望めたが、藪や木が茂るようになり、せっかくの展望をさえぎるようになっていた。秋の行楽シーズンを控え、景観を良くしてほしいとの市民の声も多かったことを受け、この

緩斜面だと維持管理が難しい

- 整備直後は、多くの人が見に訪れた
- しかし展望台を管理する福島県建設事務所は維持管理（草木の刈り払い）を行わなかっので5，６年後には見通しが悪くなった
- 見る方向が緩斜面のところに視点を設ける場合は、毎年維持管理することが前提になる

まとめ：視点の設定

基本的な考え方

１　道路沿線に設ける

２　視点前方が急斜面（30度以上）
　　のところに設ける

（車道沿線の場合、駐車場が必要になるので視点前方が緩斜面になることが多い）

Ⅱ　視点まわりの整備

- 展望台とそのまわりを整備するときに必要な知識

Ⅱ　視点まわりの整備

- 視点を設けたら眺める場所を整備する
- 疑問：なぜ、眺める場所の整備が必要なのか

→　視点は点なので眺めるための場所（スペース）が必要である

眺める場所の整備

- 考え方：眺めるための場所を確保し、
  居心地のよい状態にする
- 整備例

１　眺める場所を区画する

２　清潔にし整然とした状態にする

３　ベンチや説明板を設ける

眺める場所の整備例

眺める場所のまわりを整備する

- 疑問

眺めに関係しないのに、なぜ整備するするのか？

また整備するときの考え方はなにか？

→　景観については、人間に共通する景観の価値（価値判断、評価）がある。　それに基づき整備する

人間に共通する景観の価値（その1）

- 人間にとって一番大切なのは自分の命である
- よって自分が安全な場所にいる、守られていると感じられる環境は好ましい

→　それが感じられる眺めも好ましい

→そうでない眺めは好まれない

安全が感じられない眺めとは

- 相手　（敵）からは見られているが、自分から相手（敵）が見えない場合は不安であり、安全であると思わない
- 具体的には自分のまわりがヤブでまわりを見通せない状況である
- よって、自分のまわりがヤブの状況は好まれない　→写真で説明する

視点の前はヤブ

視点の前は草地

次は通路からの眺めの比較

通路の両側はヤブ（六義園）

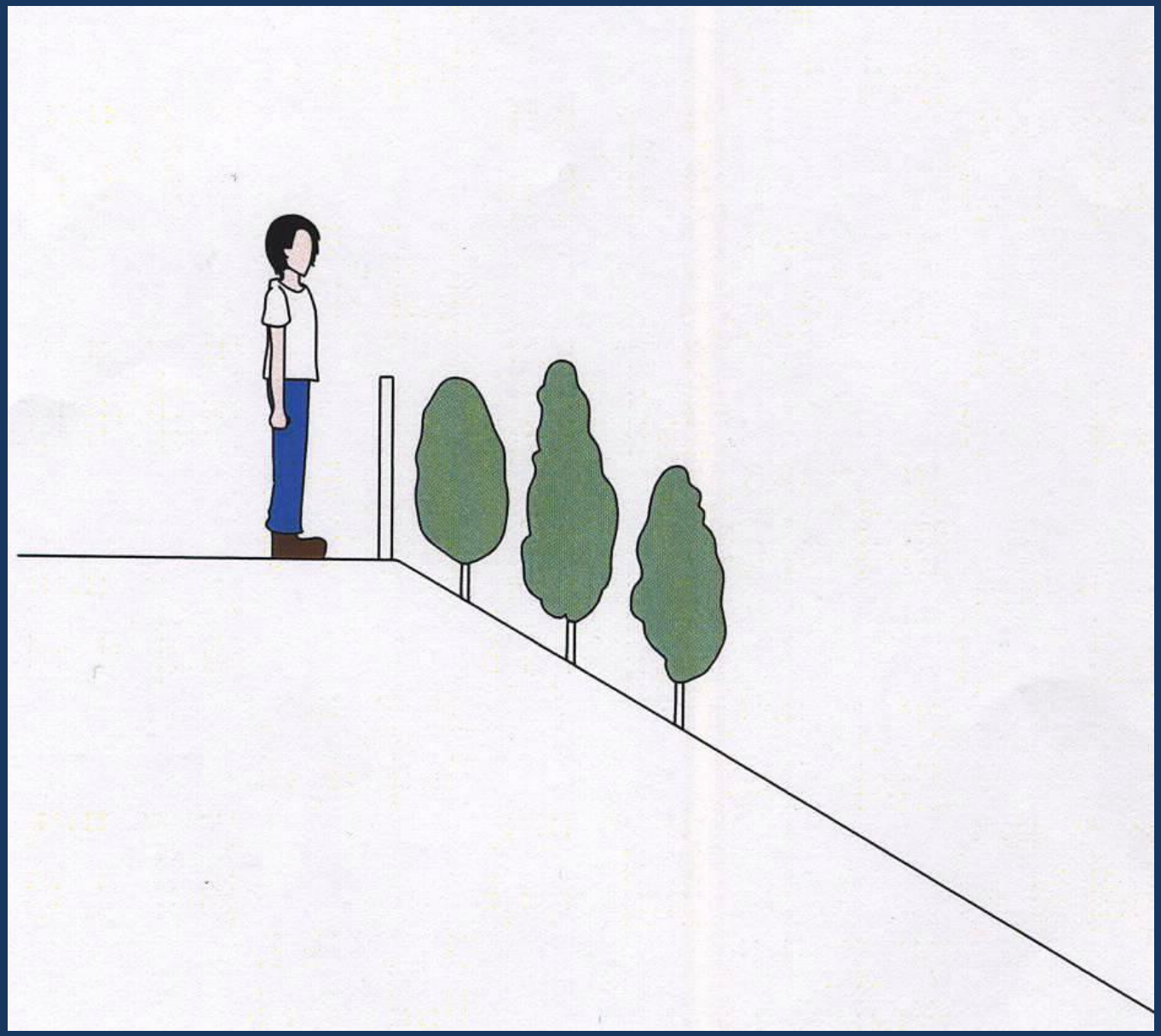
通路の両側は芝（六義園）

展望所まわりの整備

- どう整備すればよいのか

展望所の周りをヤブにしない。柵を設けないい

見る方向に柵は設けない



山地の展望台での整備事例

日光市 藤原地区 富士見展望台での
ヤブの除去

展望台の前はヤブになっている

展望台まわりは整備されている

景観の価値（その2）

- 自分のまわりの状況が分かると
  より安全に行動することができる
- よって、自分のまわりがどうなっている
  のか分かる方がよい

→　自分のまわりを見通せる方がよい

視点まわりの状況が分かる事例

１　舎人公園、日本庭園
２　墨田公園
３　山地の展望台
　　→　見て理解することが重要

舎人公園

水際が見えない

まわりがよく見通せる

１　日本庭園（六義園）での事例

展望所の状況（六義園）

- よく整備されているが、私は、整備のやり方がよくないと思っていた。すると、その後、整備され、改善された

→　次は整備後の眺め

展望所の整備後の状況　どこが違うのか

次は整備前後の展望所からの眺め

整備前の眺め

整備後の眺め（どこが違うのか）

２　墨田公園での事例

まわりの状況が分からない

前方が平坦なことが分かる

2つの眺めの違い

- 自分のまわりが見えると、どのような場所にいるのかが分かる

  → 安心感が生じる

- 視点前方が見えて、その奥にスカイツリーが見えると奥行感が生じる

３　山地の展望台の事例

- 展望台のまわりが見える場合と見えない場合の違い

展望台側方からの眺め（整備前）

整備後の眺め

次は展望台前方の眺め

- 展望台のすぐ前が見える場合と見えない場合の眺めの比較

展望台正面からの眺め（整備前）

整備後の眺め

まとめ:展望台まわりの整備

- 展望台から見たいものが見えるようにするだけでなく次も重要

1　展望台まわりのヤブを整理する

2　展望台のまわりがどうなっているのか分かるようにする

Ⅲ　見通しの確保

視点から見たいものがよく見えるようにすること

Q1　なぜ展望台から名のある山を見たいのか

Q2　そもそも見たいものとは何か

Q3　見通しがよいとはどのような状況をいうのか

Q1　なぜ名のある山を見たいのか

- 名のある山を見ることによって自分がどこにいるのかおおよそ分かるから

（自分のいる位置を教えてくれるものを見たい）

Q1　なぜ名のある山を見たいのか

- 人は常に自分がどこにいるのか把握しようとしている
- どこにいるのか分からなくなったら不安になる（道に迷ったときがそうである）
- 山地では市街地と違い案内板はなく、ランドマークとなるものも少ない
- よって、自分のいる位置を教えてくれるものを見たい　→　見たいものとは？

Q2　展望台から見たいものとは

- 自分がどこにいるのか教えてくれるものが見たい

１　名のある山や湖

２　ランドマークとなる人工物

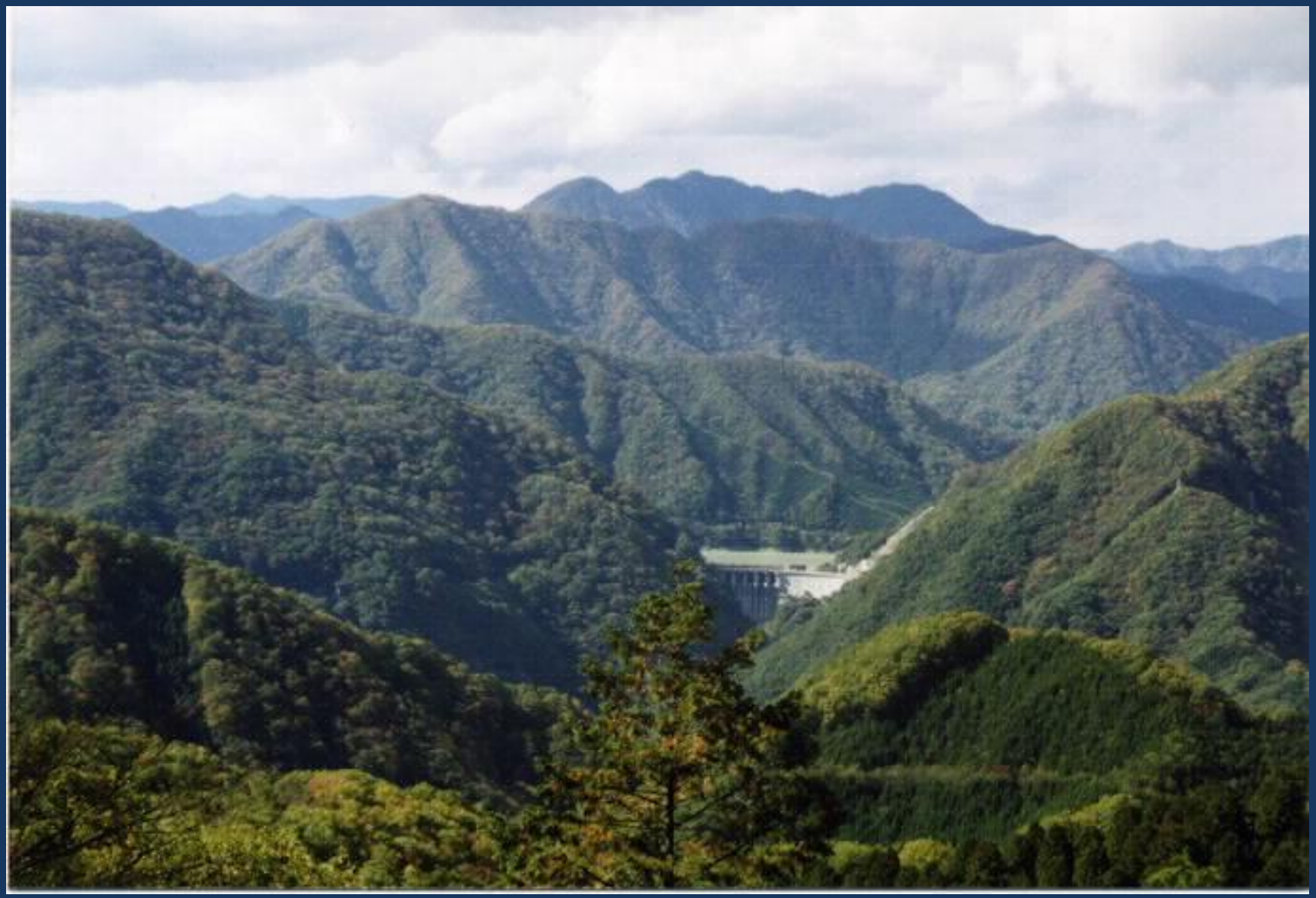
　・大橋、大ダム、・著名な建物など

３　市街地、集落など

→　事例を紹介する

展望台から大橋をのぞむ

展望台から大ダムをのぞむ



Q3　見通しがよいとは？

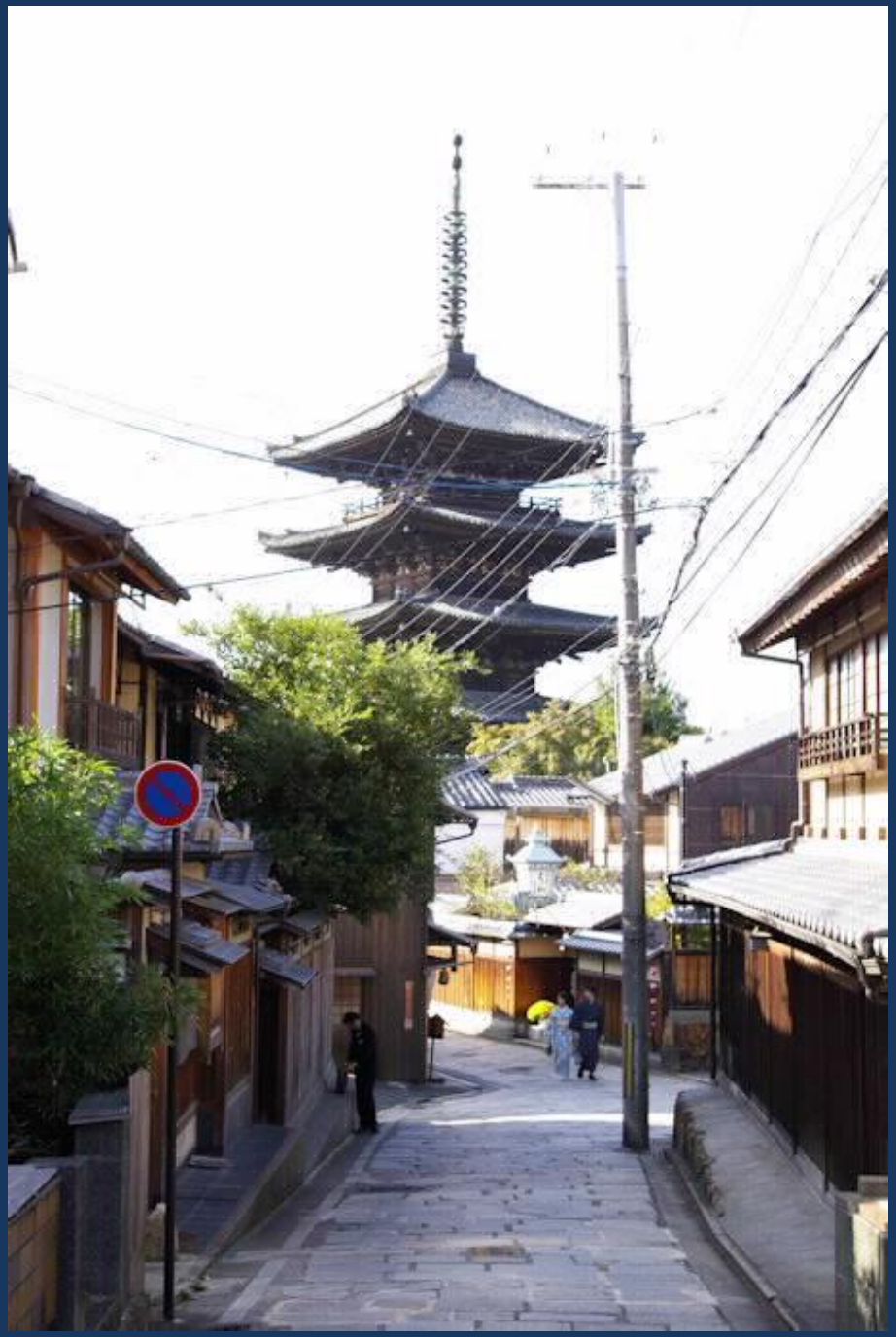
- 見通しがよいとはどのような状況なのか
- まず、見たいものが他のものによって邪魔されていないことが重要である

→　他のものによって邪魔されていて、見通しの悪い事例を紹介する

スカイツリー見通し

次は八坂の塔の整備前後の眺め

- 京都の八坂の塔（五重塔）が電柱によって見通しを阻害されていたが、電柱の地中化により見通しが改善された



整備前

八坂の塔

整備後

Ｑ　見たいものが他のものによって邪魔されていなければよいのか

- 見たいものが他のものによって邪魔されていないが、見通しに疑問のある事例を紹介する

1.1 レインボーブリッジの眺め

1.2 RBの眺め　案内板なし

2.1 名古屋城の眺め　工事中

2.2 名古屋城の眺め　工事終了後

見通し確保の留意点

１　見る方向にもの（説明板など）を立ち上げない

２　見たいものの周りが「見たいものでないもの」によって阻害されないようにする

３　清水寺での眺望伐採

- 清水寺の舞台は側方（奥の院）から眺めることはできるが、正面から眺める場所はなかった
- このため、清水寺は正面から舞台が眺められるよう、視点を設けて眺望伐採した
- それを紹介する

奥の院から本堂（舞台）を望む

舞台から正面を望む

眺める場所の案内

しかし本堂は枝のすき間からしか見えない

・見通せる範囲（すき間）が狭いのでどこから見えるのか分からなかった（視点位置が分からなかった）

・この状況は6年ほどたってやっと改善された

その後の眺め（視点前方の樹木を除去した）

本堂を撮影する観光客

清水寺の舞台（肉眼で見た眺め）

眺望伐採での留意点

- どこから眺めるのか分かるようにする
- 見たいもの（本堂）だけでなく、そのまわりも見えるようにする

４　山地の展望台での事例

- 展望台の前に樹木1本があり、見通しを邪魔している。
- なぜ取り除かないのか

4.1 視点前に樹木１本がある

4.2 なぜ低い姿勢で撮っているのか

なぜ邪魔な樹木を取り除かないのか

１　滝そのものは見えている

→　見通しが悪いとは思わない

→ 伐採要望が出てこない

２　自然に生えてきた樹木を伐ってはいけないいと思っている

伐採すれば批判されると思っている

見通しの確保で重要なこと

- 見たいものがよく見えるだけでなく、そのまわりに邪魔なものがないようにする
- 次に東京スカイツリーの眺めを紹介

この眺めはどうか

多くの人が眺めを楽しんでいる

なぜ多くの人が眺めているのか？

- ここを訪れた人は、スカイツリーが２つのビルによって絶妙に挟まれている眺めを楽しんでいる
- 見たいものは、スカイツリーだけでなく、２つのビルに挟まれたスカイツリーである
- よって、見たいものの見通しが悪いとは思わない

見通しの確保では

１　見たいものとそのまわりが他のものによって邪魔されないようにする

２　見たいもの（見せたいもの）とは何かを明確にする（特に眺望伐採を行う場合）

山地での見通しの確保の事例

- 車道沿線に視点を設けて、大ダムが見えるよう見通しを確保した、眺望伐採事例を紹介する

眺望伐採前

眺望伐採直後

その後伐採幅を広げたが誰も見に来なかった

眺める人がいなかったのは展望台のあることがわからなかったため

そこで眺める場所が分かるよう、
次を整備した

- 低い柵
- ベンチ
- 説明板

眺める場所の整備後の利用状況

まとめ

- 森林景観整備では次が重要

１　視点の設定（選定）

２　視点まわりの整備
（人を大切にする、おもてなしの表現が重要）

３　見通しの確保（見たいものとそのまわりがよく見えるようにする）

おもてなしの表現が重要

・人は自分の命が一番大切

→　自分が大切にされていると感じとれる空間は心地よい

→　写真で説明する

1.1 広い歩道？歩行者天国？（祇園）

1.2 真ん中は車道　なぜ車道を歩くのか？

なぜ車道を歩くのか

- 車道と歩道の区分が明瞭でなく、車道が立派なので、車道が歩道のように見える
- 自分が大切にされていると感じられるのでうれしくなり道の中央を歩く
- → 次は反対の事例

1.3　歩道は狭く歩きにくい

次は蕎麦屋の事例

- 2つの店のどちらに入りたいか

2.1 商い中とあるが・・・

2.2　京都の蕎麦屋　どこが違うか

東京巣鴨のとげぬき地蔵の近くにあるる蕎麦屋

これらの店の違いは何か

１　暖簾が出ている（3店とも共通）
２　照明がついている（店の外と中）
３　鉢植えの植栽が飾られている
４　お品書き（メニュー）がある
５　入口に段差がない

最初の店は2～5かない。どちらがお客さんを大切にしているか。

次は山地の展望台の事例

- 整備前と整備後でどう違うか

3.1 見たいものは見えるが草が繁茂している

3.2 整備後　居心地のよい状態になった

次は明日視察する展望台

- おもてなしの表現ができているか

日向木場展望台

次はグアム島のある展望台

大変よく整備されている
ポイントは

- 展望台まわりの草の状況
- 歩道とそのまわりの整備状況
- 展望台の高さ　など

4　グアム島のある展望台の整備状況

展望台前方の状況 （柵はない）

詳細な説明板（英語と日本語）

グアムにある展望台の特長

１　展望台まわりの草丈は低い
２　展望台へのアプローチ（歩道）と
　　その周りがよく整備されている
３　展望台を高くしていない
４　展望台に屋根はない
５　展望台で腰掛けられる
６　詳細な説明板がある

展望台の整備の考え方

１　展望台のまわりの草木は刈払い
　地面が見える（分かる）ようにする

２　展望台へのアプローチ（歩道）は
　安全に利用できるよう維持管理する

３　見せたいものを説明する
　展望台の標高を明示する

４　展望台は高くしない（高くすると何が見えるのか）　５　展望台に屋根を設けない

地域観光の振興を図る

地域観光の振興を図るためには

- 森林景観整備により次を実施する

１　既存の展望台を整備する

・見たいものが見えるよう、見通しをよくする（これが最も効果的）

・展望台のまわりの草を刈り払う

２　道路沿線に新たに眺める場所を設ける

３　道路沿線以外に眺める場所を設ける

既存の展望台を整備した事例

- 奥日光にある中禅寺湖展望台は眺めの良い展望台であったが、侵入してきた樹木によって見通しが阻害されていた
- このため、樹木を伐採して見たいものが見えるようにした

見たいものが見えない（中禅寺湖展望台）

邪魔な樹木を伐採して前の眺めを復活させた

山が程よい大きさで湖が見やすい位置にある

新聞で紹介され、観光客が増えた

日光森林管理署

中禅寺湖展望台周辺

森林伐採 景観一望

紅葉シーズン 観光客に好評

日光森林管理署はこのほど、日光市の中禅寺湖スカイラインの終点に近い中禅寺湖展望台周辺で、景観を良くするため森林伐採を行った。展望台から中禅寺湖や中宮祠の市街地、八丁出島などが眺められるようになり、紅葉シーズンを迎えて観光客らに好評だ。

同スカイラインは、中禅寺歌ケ浜から同湖南岸の半月山中腹までで、全長7・5キロ。同展望台は中禅寺湖を眼下に見下ろし、男体山、白根山の奥日光連山が一望できる隠れた名所になっている。

展望台が完成してから30年が経過し、入り込んだ広葉樹が成長して奥日光連山の眺めを遮っていた。

このため、環境に配慮しながら国有林内の3カ所で広葉樹などを伐採した。同展望台は広さ約3500平方㍍で大型車、普通車計65台が駐車できる。

【臼井真】

伐採前 奥日光連山などが見通せない

伐採後 男体山などが一望

次は、観光名所を新たに作った事例

- 見たいもの（見せたいもの）が見える位置を探して、そこを整備した事例

新たな観光名所をつくる

- 道路沿線以外のところに眺める場所を整備した（歩道の整備が必要になる）
- 整備事例

１　男体山を眺める場所の整備

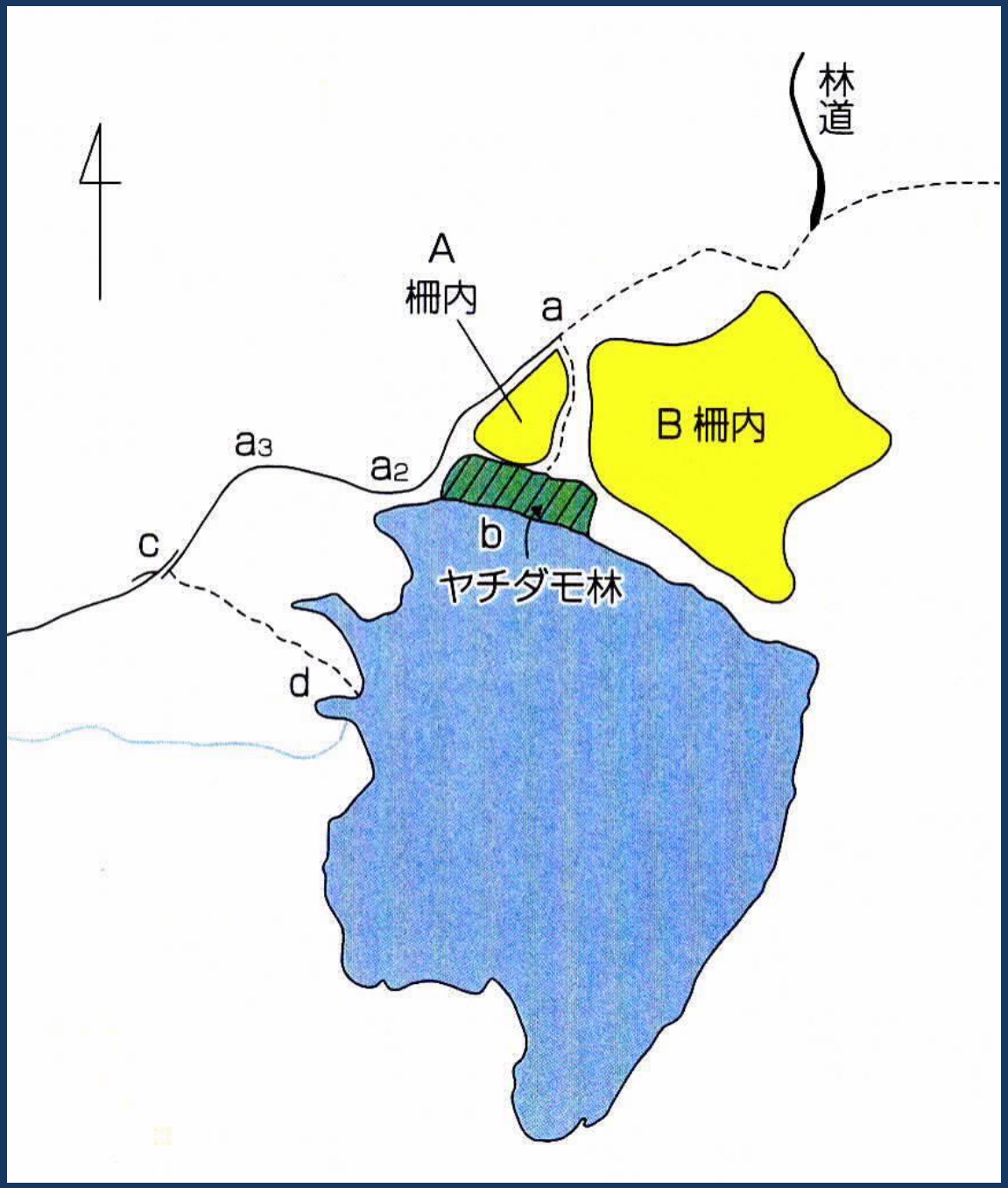
２　2つの大ダムが眺望できる場所の整備

1　新たに男体山が見える場所を整備

- 奥日光西ノ湖北岸はハイカーの踏圧によりヤチダモが枯死していた

- このため眺める場所を北岸から西岸の男体山が見える場所に移した

ハイカーの踏圧により枯死したヤチダモ



眺める場所を西岸に移した

歩道の明示

眺める場所　全く整備していない

男体山が見える新しい眺め

水面の魅力（倒景）

下野新聞
2003年（平成15年）9月27日（土曜日）

西ノ湖のヤチダモ保護

日光森林管理署

西岸への歩道整備

ハイカー分散 観光と両立

晴れた日には男体山が望める西ノ湖西岸

【日光】日光森林管理署は、奥日光西ノ湖畔手前から北岸の広葉樹ヤチダモの自生地を通らずに西岸（西ケ浜）へ抜けられる新たな歩道を整備し、二十五日から一般に開放した。ヤチダモの自生地に人が踏み入り、樹木が枯れるなどの被害が出ていたため、保護を目的に新設。同署は「西岸の『隠れた名所』に行きやすくすることで、ヤチダモの保護にもつながる」と、観光と自然保護の両面での効果を期待している。

ヤチダモはモクセイ科の広葉樹。木は真っすぐに伸び、野球用バットなどに使われる。湿地を好み西ノ湖北岸に約二百本が自生するが、同署によると、北関東でこの規模のヤチダモ林があるのは珍しいという。

しかし最近は、人の踏み付けなどで土壌が硬くなり、根が十分に呼吸できないことなどから衰勢が表面化。湖周辺でハイカーが多く訪れ、最上部から枯れたり、根が地表に浮き出る木も見られるようになった。

同署は今までに標識や丸太くいの設置、発根促進剤の散布などをしてきたが、抜本的対策として、ハイカーの分散化を計画。田中幸雄署長（五六）が、カメラマンの撮影の穴場となっている西岸への歩道を整備することで、北岸から人の流れを分散させられると考えた。

同署は千手西ノ湖線歩道の奥にあり、約三十年放置されていた西ノ湖林道跡の整備に着手。歩道の両側に道幅を示す結び木を並べただけで、切り土や盛り土などを一切行わない簡素な作りだが、自然環境を損なうことなく整備された。ヤチダモ林がある北岸から眺望の良い西岸まで約六百メートル。晴れた日には岸辺から森の向こうに男体山の南西斜面が間近に眺め、美しい風景が楽しめるという。

田中署長は「西岸の美しい風景を見に来てもらうことが、北岸のヤチダモ保護につながる。ぜひ多くの人に足を運んでほしい」と話している。

西ノ湖西岸へ至る歩道コース

新聞で紹介された

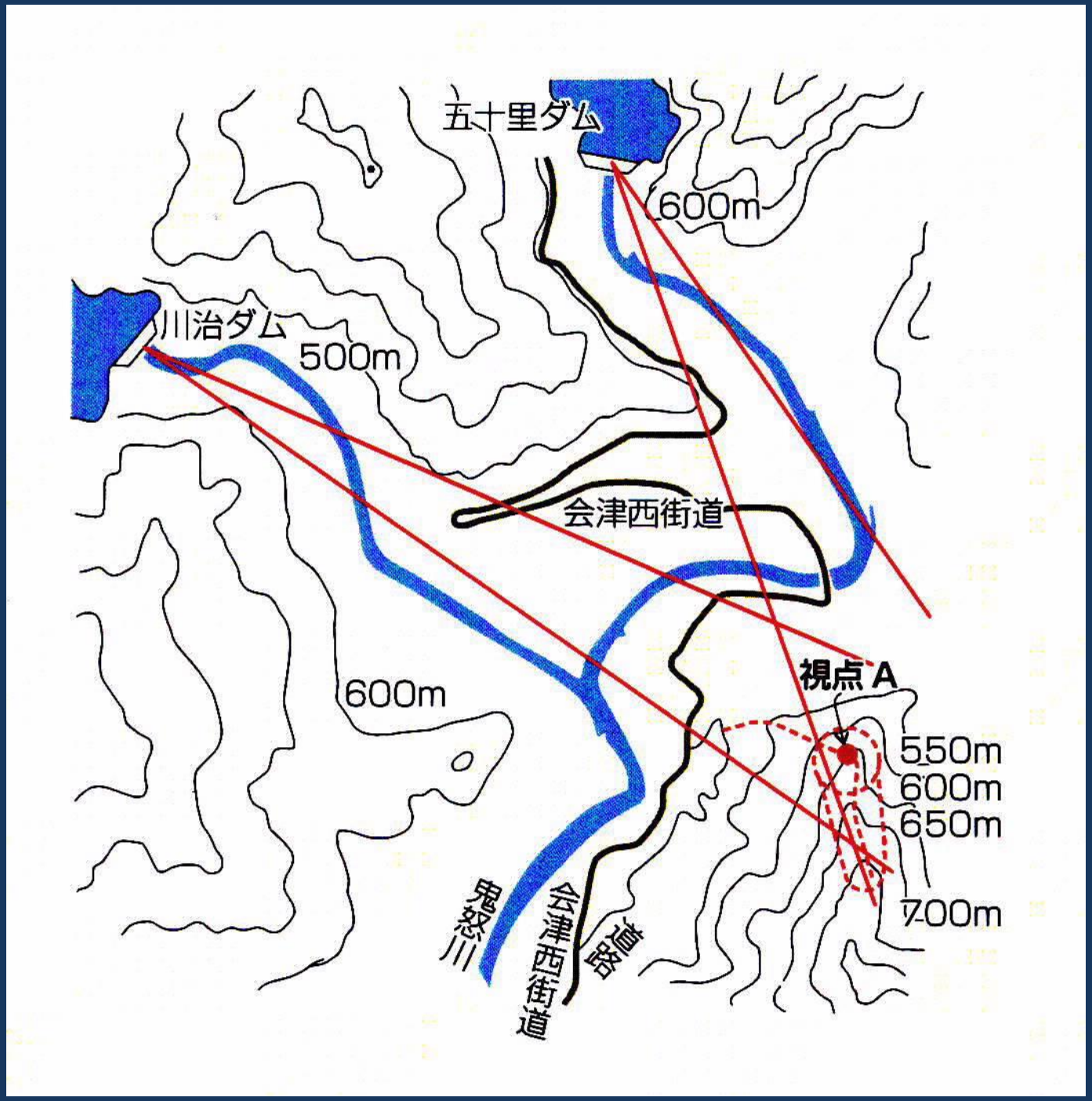
２　2つの大ダムが同時眺望できる名所

経緯：森林景観整備を進めたところ

川治温泉から散策路を新設して欲しいとの要望が上がってきた。

（温泉のまわりはすべて国有林）

　そこで散策しながら景色を楽しめるよう、2つの大ダムが見える視点を探して、そこにいたる歩道と眺める場所を整備した


五十里ダム
600m
川治ダム
500m
会津西街道
600m
視点A
550m
600m
650m
700m
鬼怒川
会津西街道
道路

視点の選定

視点にいたる歩道の作設

視点位置の状況（整備前）

整備後　柵を設け、平坦にした

見晴台からの眺め （世界で唯一）

下野新聞
2002年（平成14年）10月21日（月曜日）

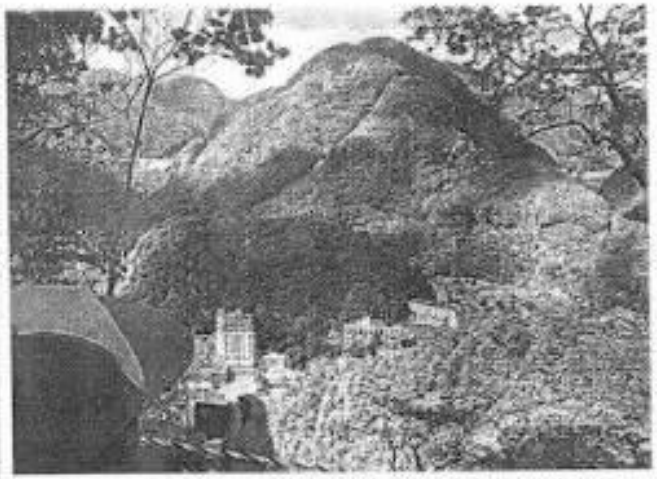
雄大な景色 楽しみ2倍

＝日光森林管理署＝

藤原の国有林に散策コース

川治、五十里ダム一望

【藤原】日光森林管理署は、川治温泉近くの国有林内に森林散策コースを整備した。つづら折りの歩道を約七百メートル登った見晴らし台からは川治ダムと五十里ダムが一望でき、東には篭頭山などを見ることができる。管理署は「二つの大規模ダムが見えるのは、全国でもここだけ。森林に親しみ、雄大な景色を楽しんでほしい」と話している。



コースは、魅力あるポイントを結び、多くの人に森林とふれあってもらうとともに、地域振興にもつながればと日光森林管理署が計画。ともに高さ百メートルを超える川治、五十里の両大規模ダムが見える場所を探し出し、町の協力を得て一般ハイカーも利用できるような歩道を整備した。

土留めきざみや階段に間伐材を使い、歩道の傾斜は約一〇度。終点の見晴らし台からは眼下に温泉街、その右に五十里ダム、左に川治ダムが見える。

見晴らし台までは往復約一時間。小学生からお年寄りまで楽しめるという。

標高六四〇メートルの見晴らし台からは、眼下に川治温泉街、右に五十里ダム（高さ百十二メートル）、左に川治ダム（百四十メートル）を一望できる。また東には篭頭山、中岳、西平岳が連なる雄大な景色が広がる。春にはアカヤシオ、ゴヨウツツジなどが咲き、これからの紅葉を楽しみにも絶好のポイントという。

コースは、国道一二二号から川治小中学校入り口の信号を入った所がスタート地点（駐車場なし）。川治温泉観光協会は、見晴らし台の名称を、「このほど開いた『川治まなべてね祭り』会場などで公募し、近く決定する。協会の坂内眞之専務は「川治温泉の魅力は自然と風呂。自然を生かした散策コースは川治らしくていい」と、「新名所」誕生を喜んでいる。

新聞で紹介された

地域観光の振興を図るには

まずは、既存の展望台を整備することである

１　見たいものが見えるよう、見通しをよくする

２　眺める場所とその周りを整備する

おわり